

# S I D R

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》  
平成 22年 9 月  
(第35 ~ 39週)

発行年月日 : 平成22年(2010年) 10月27日  
発行 : 滋賀県衛生科学センター内  
滋賀県感染症情報センター  
電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

## 1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といえます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 22年				平成 21年 <sup>*1</sup>				感染症 類型	疾 病 名	平成 22年				平成 21年 <sup>*1</sup>			
		1～8月		9月		1～12月						1～8月		9月		1～12月			
		滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国			滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国		
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	四類	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0		
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	55	0	31	0	12		
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0		日本脳炎	0	0	0	1	0			
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0			
	ベスト	0	0	0	0	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0	0			
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0		鼻疽	0	0	0	0	0			
ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0	ブルセラ症		0	2	0	0	0				
二類	急性灰白髄炎	0	1	0	1	0	0	0	0		ペネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0			
	結核	155	16,416	35	2,521	256	26,932				ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0			
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0		発しんチフス	0	0	0	0	0			
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0		ボツリヌス症	0	0	0	0	0			
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0		マラリア	0	47	0	9	0	5		
三類	コレラ	0	6	0	3	1	16				野兔病	0	0	0	0	0			
	細菌性赤痢	2	121	0	36	0	180				ライム病	0	8	0	3	0			
	腸管出血性大腸菌感染症	22	2,617	31	858	27	3,886				リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0			
	腸チフス	0	21	0	3	0	29				リフトバレー熱	0	0	0	0	0			
	パラチフス	1	14	0	4	0	27				類鼻疽	0	2	0	1	0			
四類	E型肝炎	0	46	0	2	1	56				レジオネラ症	5	463	4	76	8	71		
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	0		レプトスピラ症	0	6	0	7	0	1			
	A型肝炎	3	296	0	15	0	115			ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0				
	エキノコックス症	0	6	0	2	0	26		五類	アムールバ赤痢	3	538	0	93	10	78			
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0		0	ウイルス性肝炎	2	129	1	21	3	22		
	オウム病	1	9	0	0	0	21			急性脳炎	0	159	0	20	8	52			
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0		0	クリプトスポリジウム症	0	10	0	6	0	1		
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0		0	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	105	0	14	2	14		
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0		0	劇症型溶血性 レンサ球 菌感染症	1	85	1	4	2	10		
	Q熱	0	1	0	1	0	2			後天性免疫不全症候群	1	954	0	125	9	1,44			
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0		0	ジアルジア症	0	49	1	9	0	7		
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	2			髄膜炎菌性髄膜炎	0	6	0	0	0	1			
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0		0	先天性風疹症候群	0	0	0	0	0	0		
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0		0	梅毒	6	395	0	61	3	69		
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0		0	破傷風	0	64	0	11	3	11		
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0		0	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0		
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0		0	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	69	1	11	0	11		
	つつが虫病	0	111	0	3	0	465			風しん	5	67	0	5	2	14			
	デング熱	0	126	1	58	0	93			麻しん	1	360	0	35	7	73			
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0		0	新型コロナウイルス感染症	-	-	-	-	138	12,63		
	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0		0									

\*1 感染症発生動向調査事業年報暫定値(国立感染症研究所感染症情報センター)

(\*)：集計期間は平成21年7月24日～平成21年8月24日。 -：未集計

\*1 感染症発生動向調査事業年報暫定値(国立感染症研究所感染症情報センター)

(\*) : 集計期間は平成21年7月24日～平成21年8月24日、- : 未集計

## 滋賀県における全数報告感染症の概要 (9月)

< 結核 > 35名 男性 21名、女性 14名

類型: 患者 29名、疑似症患者 1名

無症状病原体保有者 5名

病型: 肺結核 21名、疑似症 1名

その他の結核 8名

無症状病原体保有者 5名

< 腸管出血性大腸菌感染症 >

性別: 男性 11名、女性 20名

年齢: 0～9歳 5名、10歳～8名

20歳～2名、30歳～5名、40歳～4名

50歳～3名、70歳～3名、80歳～1名

血清型・毒素型: O157・VT1&VT2 26名

O157・VT1 2名、O157・VT2 3名

< レジオネラ症 >

男性 59歳、72歳、80歳、84歳

推定感染経路は水系感染2名、塵埃

感染1名およびその他1名で、推定感

染地域は3名とも日本国内です。

< デング熱 > 男性 20歳

推定感染経路は動物・蚊・昆虫等から

の感染で、推定感染地域はインドおよび

ネパールです。

< ウイルス性肝炎 > 男性 37歳

推定感染経路および推定感染地域は

不明です。

< 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 >

女性 87歳

推定感染経路は不明で、推定感染地

域は日本国内です。

< ジアルジア症 > 男性 66歳

推定感染経路は経口感染で、推定感

染地域は米国です。

< バンコマイシン耐性腸球菌感染症 >

女性 0歳37月

推定感染経路は不明で、推定感染地

域は大韓民国です。

## 2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

### 9月の概要

#### <インフルエンザ>

第37～39週(9/13～10/3)には少数の報告がありましたが、第35～39週(8302～10/3)における発生状況は、昨年をのぞく過去の同時期とほぼ同様の発生状況を示していました。

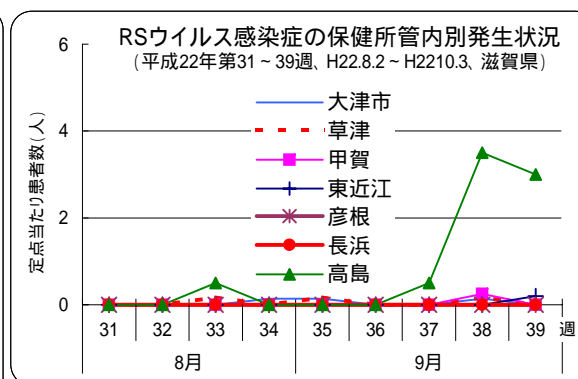
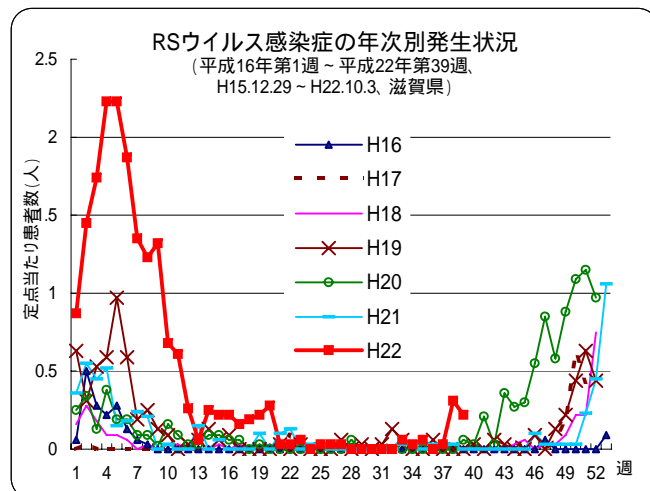
#### <小児科定点疾患>

先月より減少した疾患は、水痘、伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳、手足口病およびヘルパンギーナで、その他の疾患は先月より増加していました。特に、RSウイルス感染症では、平成16年以降では最も早い時期から増加傾向を示し、例年同時期よりかなり多く発生していました。平成22年第31～39週の保健所管内別発生状況では、高島で多くなっていました(下記グラフ参照)。また、手足口病では、減少傾向が持続し例年と同様の発生状況となっていました。ヘルパンギーナでは、減少傾向は持続しているものの、昨年同時期より多くなっていました。ヘルパンギーナの保健所管内別発生状況は、高島保健所管内で多くっており、定点当たり患者数は警報終息基準値 2.00をかなり超えていました(他の疾患については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。また、百日咳の報告は、すべて大津市保健所管内からの報告でした。

#### <眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月と横ばいで、急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。基幹定点疾患では、無菌性髄膜炎は先月より微増となり、すべて東近江保健所管内からの報告でした。マイコプラズマ肺炎は先月と横ばいで、甲賀および東近江保健所管内からの報告でした。クラミジア肺炎は、大津市保健所管内からの報告でした。細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

### RSウイルス感染症の発生状況



平成22年31～39週における年令群別発生割合  
では、0～1歳が全体の78.3%を占めていました。

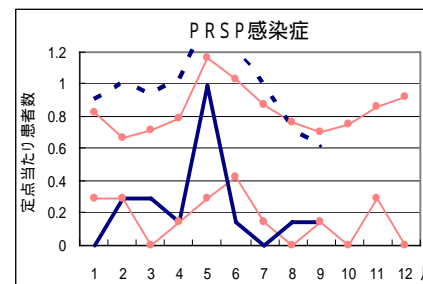
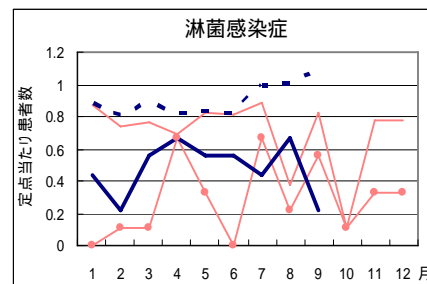
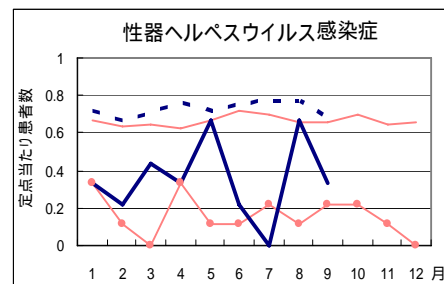
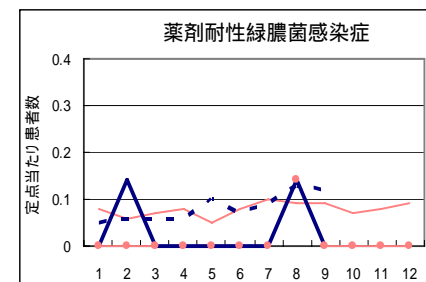
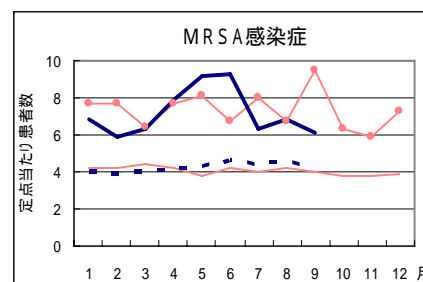
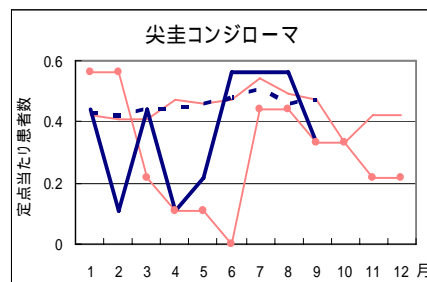
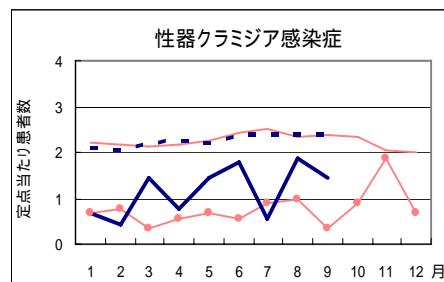
#### <各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>) において公表されています。

### 3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成 22 年 9 月)

疾患名	区分	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	合 計
性器クラミジア感染症	罹患数	6	4	13	7	13	16	5	17	13				94
	定点当たり	0.67	0.44	1.44	0.78	1.44	1.78	0.56	1.89	1.44				10.44
性器ヘルペスウイルス感染症	罹患数	3	2	4	3	6	2	0	6	3				29
	定点当たり	0.33	0.22	0.44	0.33	0.67	0.22	0	0.67	0.33				3.21
尖圭コンジローマ	罹患数	4	1	4	1	2	5	5	5	3				30
	定点当たり	0.44	0.11	0.44	0.11	0.22	0.56	0.56	0.56	0.33				3.33
淋菌感染症	罹患数	4	2	5	6	5	5	4	6	2				39
	定点当たり	0.44	0.22	0.56	0.67	0.56	0.56	0.44	0.67	0.22				4.34
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	罹患数	48	41	44	55	64	65	44	48	43				452
	定点当たり	6.86	5.88	6.29	7.86	9.14	9.29	6.29	6.86	6.14				64.61
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	罹患数	0	2	2	1	7	1	0	1	1				15
	定点当たり	0	0.29	0.29	0.14	1.00	0.14	0	0.14	0.14				2.14
薬剤耐性緑膿菌感染症	罹患数	0	1	0	0	0	0	0	1	0				2
	定点当たり	0	0.14	0	0	0	0	0	0.14	0				0.28

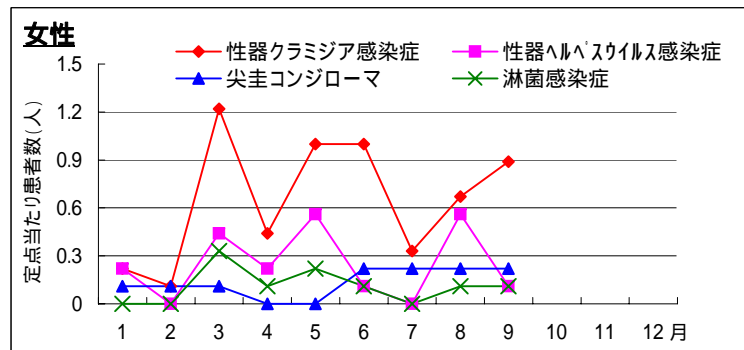
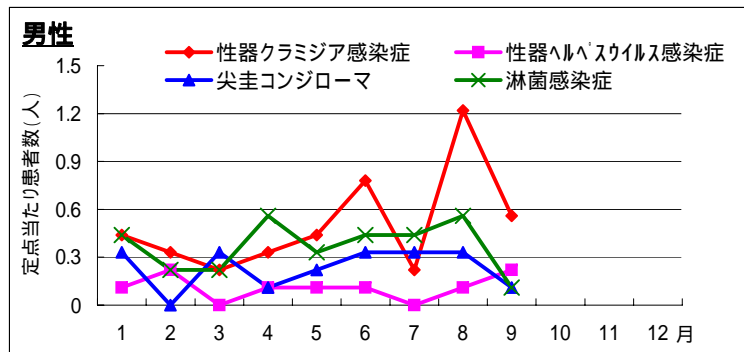


H21 〔 滋賀 ● 全国 ○ 〕  
H22 〔 滋賀 ● 全国 ○ 〕

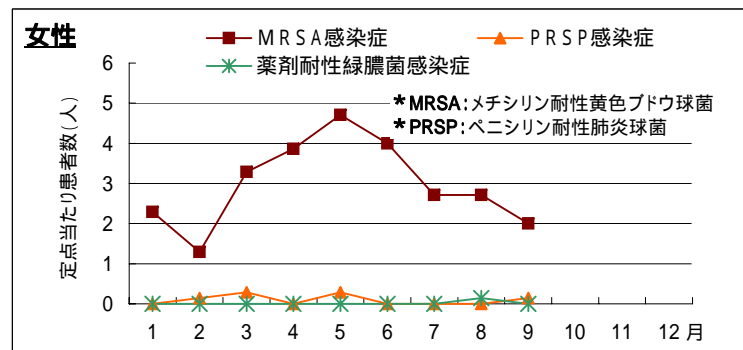
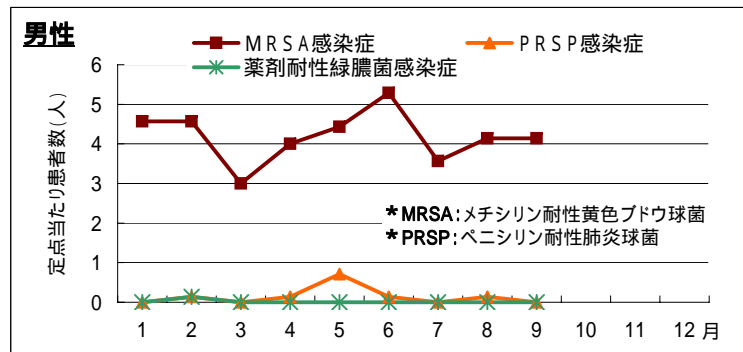
MRSA:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌  
PRSP:ペニシリン耐性肺炎球菌

性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況を先月と比較すると、PRSP（ペニシリン耐性肺炎球菌）感染症では先月と横ばいですが、その他の疾患では減少しています。また、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありません。

**性感染症定点における疾患別発生状況**  
(H22.9)



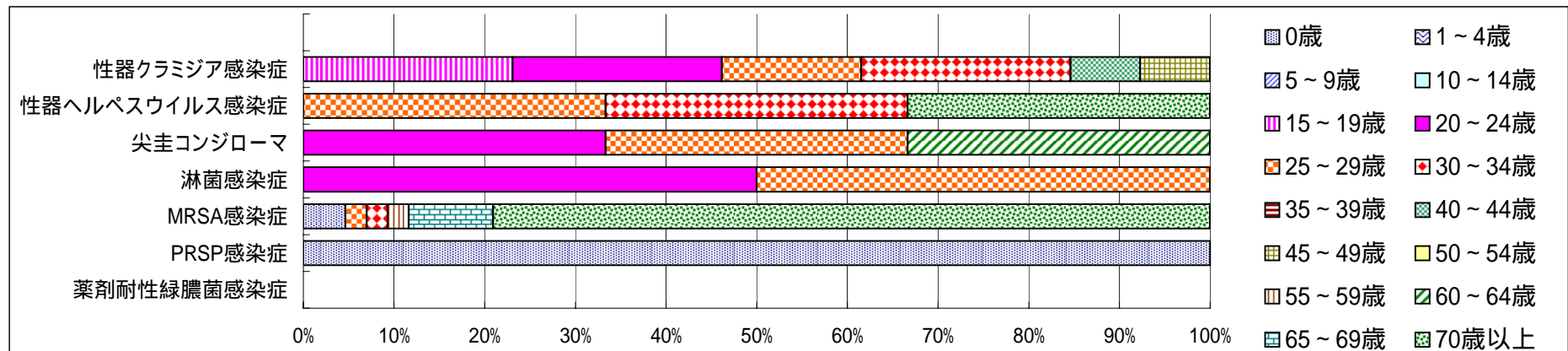
**基幹定点における疾患別発生状況**  
(H22.9)



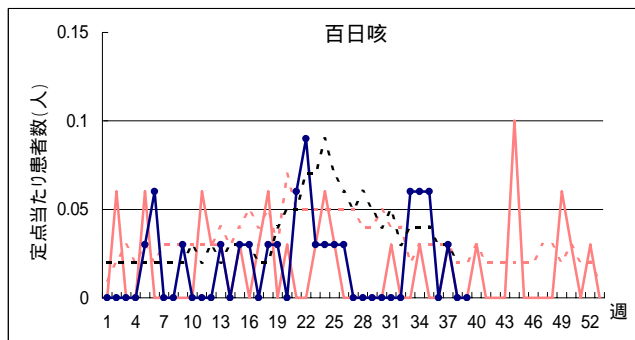
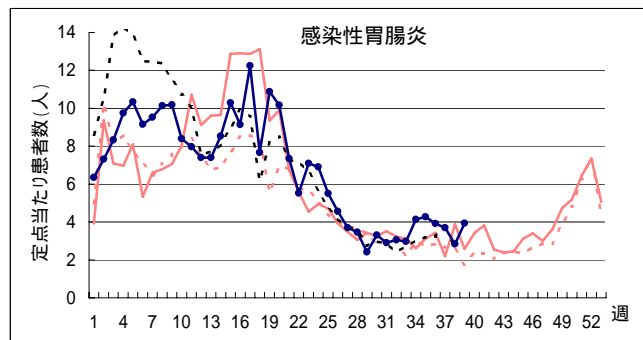
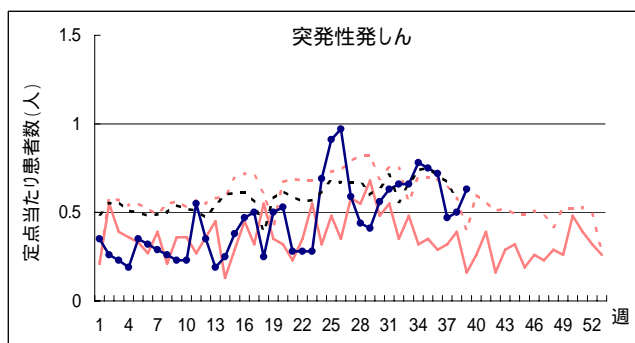
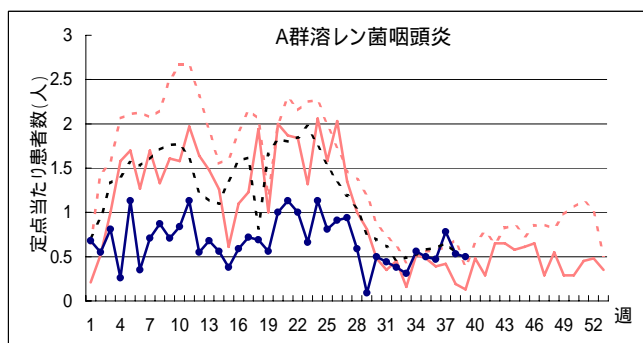
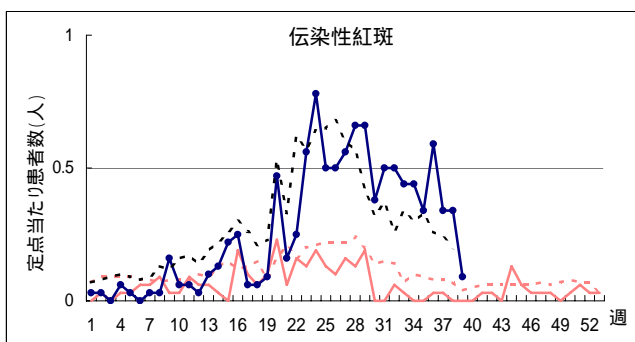
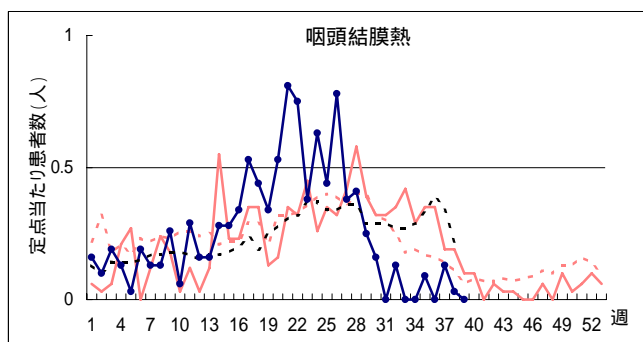
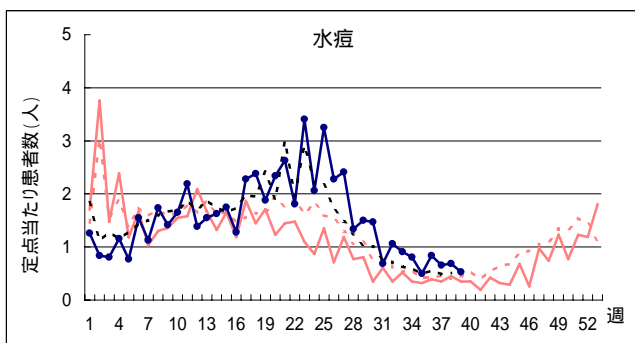
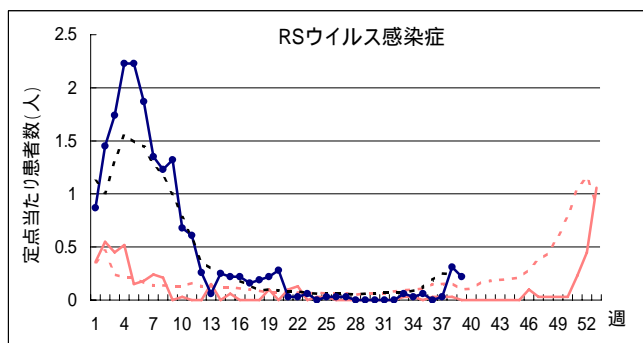
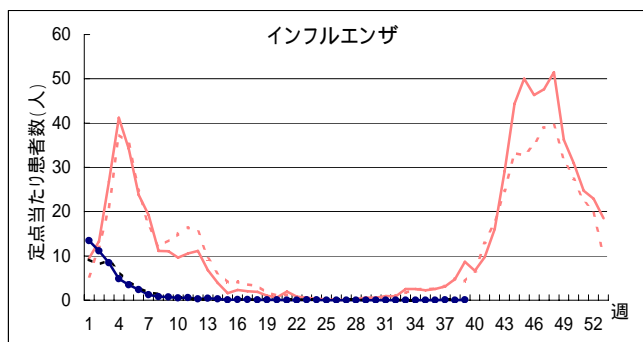
性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとおりです。性器クラミジア感染症では、男性でかなり減少していますが、女性で増加しています。性器ヘルペスウイルス感染症では、女性で減少していますが、男性で微増となっています。

また、各疾患の年齢別発生状況は下記グラフのとおりです。性器クラミジア感染症では、男女ともに15～19歳からの報告があります。

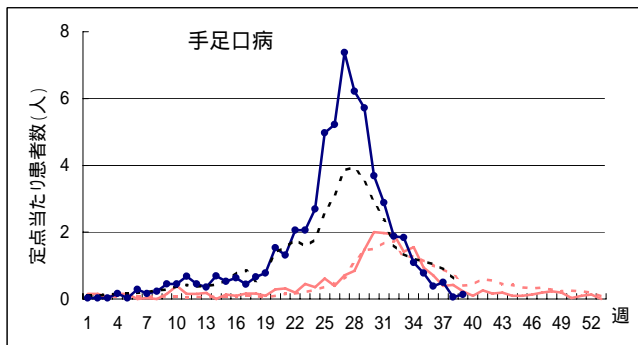
**疾患別・年齢別発生状況 (H22.9)**



# 疾病別定点当たり患者数(平成22年第1～39週、H22.1.4～H22.10.3)



疾病別定点当たり患者数(平成22年第 1 ~ 39 週、H22.1.4 ~ H22.10.3)



H21 { 滋賀 (solid red line)  
全国 (dotted red line)

H22 { 滋賀 (solid blue line with dots)  
全国 (dotted black line)

